

オールエフ、なう。

断面新聞

慶應義塾大学
環境情報学部
加藤文俊研究室
【非売品】



【第二号】

twitterで逆探索!

これはいつたい、誰がつぶやいた?

今年のORFはtwitterを使った試みが数多くなされている。#ot2009と検索してページを開いてから数分後には、各ブーッやセッションに対して新たにつぶやかれており、ページを更新すると、あつという間にタイムラインは違うつぶやきでうめつくされる。

今回、面白いと思ったつぶやき、RTが多くなされているつぶ

やきをした人を探すことにしてみた。その中で

「まさかの童貞研究ww
<http://twiopic.com/q/nso>
#ot2009 #C051

このつぶやきをした方(@hamano_satoshi)を探

すことにした。このつぶやきに、対するRTの数、さらにその後と同じブースの展示でつぶやかれたと思われる、いくつかのつぶやきに対する、RTも次々に#ot2009のタイム

ラインが上がってきたため、この人を探すことにした。さて、まずはどこに向かうかを決めるために、@hamano_satoshiさんのタイムラインを見ることにした。

「田中浩也さんの(略)」

#ot2009 #D071

なるほど、D07のブースになるようなので、探しに行く。が、しかし、みつからない。と思っているうちに新たなつぶ

やきがされた。

「twittable(略)ちつきの童貞が表示されてきますい、
#ot2009 #G07

<http://twiopic.com/q/rly>
G07ブースに行くも見つか

らず。作戦を変更して、過去の眩ぎも見てみることに。どうも熊坂研に関係のある方のようだ。ということで、熊坂研のブースへ。

つるつること五分程、アイコ

ンの写真と思しき人影が。思

いきって声をかけてみると、@hamano_satoshiであつ

た。失礼ながらもお話して

いてわかったのだが、今日の16時からセッションでお話をされる方ということで、熊坂

研のブースを廻らず準備を始

めていたためつぶやきがなくなつており、発見に時間がか

かったが、ぎりぎりお会いす

ることが出来た。コメントを

頂くと、「童貞研究は必見」とのこと。

また同時に、童貞研究をされた方も紹介していただいた。研究のイントロとして、童貞のやりたいけどやること

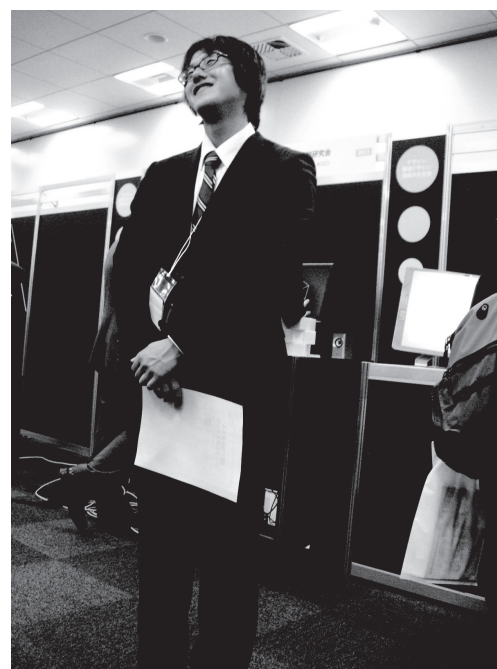
が出来ない、という価値から、草食男子という言葉に表されるように、やらなくてもいいし、やらないという新たな

価値観が生まれている、という点にひかれ研究しようと思

ったそう。ここで私が語るよりも、C05のブースに足を運んでみてはいかがだろう

か。(@pokekeke)

スーツism@ORF



SFC生調査

企業の方々も来賓するSFCの研究発表の場、ORF。特に展示者はスーツ着用ということで、フロア内は圧倒的にスーツが多い。普段私服で過ごしている学生は、このような場でどんなスーツを選ぶのだろうか。

二十三日午後三時過ぎ、場内のスーツ着用男子学生をくまなく見て回り、スーツの柄、色、ネクタイの柄を調査したところ、黒無地が全体の60%、黒のストライプが40%、グレーが少数派であった。(来賓、教授、女子学生は対象外)

またネクタイの色は、黒ベースが全体の25%、赤ベースが20%、紺ベースが23%と三強で、次点紫、グレーが多かった。

一方の女子学生は、パンツスタイルが全体の70%強を占め、ス

カートは少数派であった。数名に訊いてみたところ、パンツ女子は「スカートより」歩きやすく、楽だから」に対して、スカート女子は「これしか持っていない」「なんとなく」と消極的な意見だ。

またスーツを選んだ理由を訊いてみたが、値段が高くないもの、随分昔に買ったものなど、あまりスーツにこだわりはないようだ。

他のキャンパスよりもカジュアルな雰囲気を持つSFCなので、フォーマルな場所に慣れていないのかもしれない。それが「いつもと違う」引き締まった雰囲気が出て良いのかもしれないし、逆にスーツをやって、普段のSFCらしさを出しても良いかもしれないと思う、六本木ヒルズの昼過ぎであった。

(@erikuma)

イベントごとがある時は、そこであった出来事や、会場の様子、展示の風景など、その場所での何があったのかを記録する人がいる。OJFでは、プレスによる取材の他に、事務局による記録もおこなわれていると言う話を、セッションを撮影していたカメラマンの方にお聞きした。取材したカメラマンの方はセッションを中心に撮影しながら、会場全体の様子や、展示の様子を撮影していた。

会場の中心にいる人のなかで、来場者の方は常に見る立場の人間であり、時に来場者と同じ立場になる出展者は見られる立場の人間である。しかし、カメラマンの方は、見る人も、見られる人も同時に見る立場の人間として、俯瞰的にOJFをみているのではないだろうか。

多くの来場者の人にとってもそうであるだろうが、同じようにカメラマンの方にも目を引く「もの」がある場合に、撮影をしたくなるという事だった。仕事中であり、あまり話を聞く事はできないと語っていたが、特に「絵になる」と語ってくれたのは、小林博人研究室の「都市と地方の「場」のヴィジュアルイゼーション」という展示である。大きな建物の模型が特に目を引く展示であり、説明している人の姿と合わせる「絵的にちよいどいいのである。ぜひ話を聞きたい」という話だった。

次に話を聞かせてくれたのは「サイバーサウンドプロジェクト」という展示だった。展示の場所にはエレキギターが展示されており、説明している姿を撮ろうとした際、ギターを構えてポーズをとってくれ、それにつられてたくさんとってしまったそうだ。

会場の様子は、人ごみの多い場所をよく撮るそうだが、にぎわっている様子を撮るのはやはり「絵になる」という事が重要なのだろう。

目を引く展示は、人がたくさん集まり、記録にも記憶にも残る展示という事になる。仕事で忙しいカメラマンの方にも、記録に残すだけでなく、仕事とは別に楽しく、じっくり話を聞いてもらいたいものである。

(@mr_elephant)

レンズ越しのOJF



展示の裏側では・・・



R4SN

株式会社ライジン

<http://www.risn.jp>

クリエイティブエージェンシーのライジンです。国内大手企業、グローバル企業だけでなく、スタートアップ企業等の広告分野でのパートナーとして「売上を増やす」という共通のミッションを、「共感する」クリエイティブ開発と「ROIを高める」メディア戦略の両面からお手伝いさせていただいております。

加藤文俊研究室 フィールドワーク展VI 「・」

2010年2月5日(金)～7日(日)
@ギャラリーやさしい予感(目黒駅徒歩3分)
OB展/写真展 同時開催